

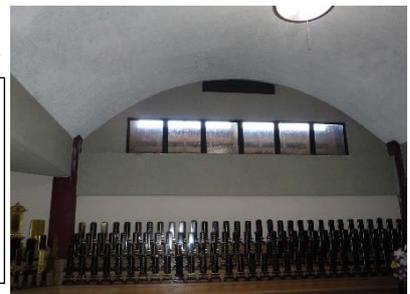
本堂・諸堂の耐震及び改修工事終了

瑞龍寺様（静岡市葵区・曹洞宗）は、徳川家康の正室で豊臣秀吉の妹である旭姫（あさひひめ）のお墓があることでも有名な名刹で、静岡市の賤機山（しずはたやま）の西側先端付近に山を背負った形でお寺があります。静岡市の崖条例による警戒区域に指定されたことよって、現在地に建物を建替えすることができなくなっ
てしまいました。これにより現存する建物をいかに永く保存していくかがポイントとなり、平成三〇年から補修・補強・改修の大工事を一年半の工期を費やして行いました。

本堂・書院・隠寮は耐震工事（限界耐力計算法による制震工事）と瓦の葺替えや修理を行い、屋根の重量の軽減や漏水修繕工事を施し、強度を高めることができました。そして位牌堂は鉄筋コンクリート造で築六〇年以上が経過しているため、コンクリートの強度の調査を業者に依頼いたしました。その結果まだ大丈夫ということで位牌堂を改修することになりました。これまでは薄暗く使用頻度の少なかった位牌堂が、温かみのある木造仕様に出来上がり、また空調設備を完備したことで法事を行えるようになりました。そしてトイレや納戸、広い廊下も明るくなり、使い勝手が良くなったことをご寺院や檀家の皆様にも喜んでいただきました。今後もアフターサービスに努めてまいります。

改装前→

改装後は新築したように見違えるほど位牌堂らしくなりました



阪神大震災後の一九九五年に「耐震改修促進法」が施行され、地震などの災害に対して『倒壊による生命の危険をなくすこと』は、多数のものが利用する建物の所有者へ耐震改修に努めること（努力義務）が求められています。寺社仏閣を代表とする昔からの構造・骨格の建物のつくりは『伝統構法』といい、揺れを吸収する木組み・通し貫木で繋がっており、つくり合った耐震・制震の補強が必要になります。そして弊社においてもここ数年、本堂等の耐震補強工事の問合せが増えている状況にあります。現在神奈川県小田原市と磐田市のご寺院でも工事を進めているので、見学などご希望の方は遠慮なく問い合わせください。